

家庭の防災力を高めるために

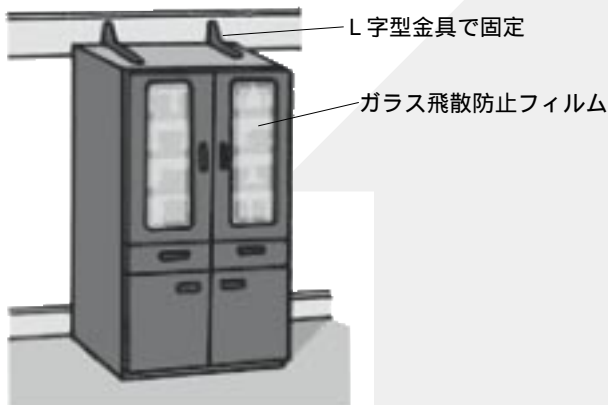
ふだんの備え、再点検！

9月1日は「防災の日」。大正12年(1923年)のこの日に発生した「関東大震災」を教訓に、防災を見直すために定められた日です。この震災の記憶が遠ざかってきた平成7年1月、阪神・淡路大震災が発生し、私たちは大震災の恐ろしさを改めて思い知らされました。いざというとき、大切な命や財産を地震から守るためには、日ごろの危機管理が大切。過去の教訓を生かし、ふだんの備えを再点検してみましよう。

家庭の防災対策を点検しよう

家具の転倒防止をしているか

本棚やたんすなどの家具は転倒しないよう、L字型金具などを使ってしっかり留めておきましょう。食器棚などのガラスには、ガラス飛散防止フィルムを張っておきましょう。また、寝ているときに棚が倒れてきたり、上に置いたものが落ちてきたりしないよう、家具の配置を工夫しましょう。



家の耐震性は大丈夫か

阪神・淡路大震災では、約10万5千棟の住宅が全壊、約14万4千棟が半壊。また、この震災で亡くなった人の約8割が住宅の倒壊によって亡くなったものと推定されています。日ごろから我が家の耐震性を点検し、補強工事を施すなど、地震に強い家にしておきましょう。

「非常持ち出し袋」を備えているか

いざというとき、避難生活に必要なものをすぐに持ち出せるよう、1つにまとめておきましょう。



家の周囲は安全か

地震でブロック塀や石塀が倒壊し、下敷きになった人が亡くなったケースもあります。ブロック塀などがある場合は施工に欠陥がないかを確認し、ぐらつきやひび割れ、傾きなどがいないか点検を。必要に応じて補強しておきましょう。また、プロパンガスのボンベがある場合は、しっかりと固定しましょう。